



初期研修医生活 1 年目を振り返って

長岡赤十字病院

大 木 陸

長岡赤十字病院での初期研修が始まってから、気づけば1年が過ぎ、この春から2年目を迎えることとなりました。振り返ると、研修医としての1年目は毎日が新しい経験の連続で、医師としての基礎を必死に身につける日々でした。研修が始まる前は当直を含め救急対応を第一線で行うということへの不安が大きかったということを良く覚えています。いざ始ってみると救急外来では、軽症から重症までさまざまな患者さんの初療を経験させていただきました。初めは目の前の患者さんにどう対応すべきか迷うことも多くありましたが、上級医の先生方から丁寧に御指導いただき、少しずつ慣れていくことができました。失敗してしまったこともたくさんありましたが、そのような経験はむしろ鮮明に記憶に刻まれており、全てが今の自分の糧になっていると感じています。

長岡赤十字病院の魅力は、幅広い症例を経験できる環境にあると感じています。中越地区の基幹病院としての役割を担っているため、多様な疾患に触れる機会があり、ありふれた疾患から稀な疾患まで経験することができ総合的な診療能力を養うことができました。どの診療科も充実した指導体制で、1年間本当に学びの多い研修となりました。時間を割いて指導していただいた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

新天地である長岡という土地にも愛着を感じ始めています。長岡は自然が豊かで、四季の移ろい

を身近に感じられる街です。今年の冬は大雪となりました。大学生活を過ごした新潟市では経験したことのない積雪量を経験し、本格的な除雪も初めてやってみて雪国の生活の大変さも垣間みることができました。また少し足を延ばせば温泉も多くあり、気軽にリフレッシュすることができます。そして、長岡まつり大花火大会は、長岡の魅力を語る上で外せないと思います。実際に現地で見ると花火は言葉では表せないほどの迫力と感動があります。病院職員とともに大民謡流しにも参加させていただき、本番に備えて研修医同士で踊りの練習をしたのは良い思い出になりました。

2年目となった今、これまで先輩方に支えていただいた分、新しく入職する1年目研修医の力にもなれるよう意識するようになりました。同時に、出来ることが多くなってきた反面、医師としての責任も少しずつ大きくなってきていると感じています。日々の研修の中ではまだまだ分からないことばかりで自分の知識不足を痛感させられます。学ぶことは多くありますが、一人一人の患者さんに誠実に向き合い、立派な医師へと成長していきたいと思っています。

長岡赤十字病院での研修生活は、医師としての基礎を築く貴重な時間であると同時に、人としても成長させてくれる日々です。これからも多くの経験を積みながら、医療の担い手として歩んでいきたいと思っています。